

平成28年度鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価対象課題

	担当室・チーム	評価及び審査の区分	課題名	概要	実施(予定)年度
1	水環境対策チーム	事前	水環境における希少動植物の保全に向けた研究	カラスガイやセキショウモの再生手法を確立し、希少動植物保全方法を提言する。	H29～30年度
2	水環境対策チーム	事前	水質観測技術の実用化に向けた研究	画像から「迅速に」「分かりやすく」「的確な」湖沼表層の水質情報をマッピングする技術を開発し、住民へ迅速に分かりやすい環境情報を提供する。	H29～30年度
3	大気・地球環境室	事前	鳥取県内の粒子状汚染物質の実態解明に関する調査研究	年間を通じて粉じん中の金属元素の濃度を測定し、本県における粒子状物質による汚染実態を明らかにするとともに、粒子状物質の由来を解明することにより、排出源対策の基礎資料とする。	H29～30年度
4	大気・地球環境室	事前	鳥取県全域における空間放射線及び環境試料中の放射能調査	UPZ内の空間放射線量率等の調査を高密度に実施するとともに、UPZ外の県内全域を追加調査することにより、緊急時等に活用できるデータを収集する。	H29～30年度
5	保健衛生室	事前	食品、植物抽出物の抗ノロウイルス作用に関する研究	実用的なノロウイルス予防法の開発のため、抗ノロウイルス作用のある自然食品を探索する。	H29～31年度
6	リサイクルチーム	事前	休廃止鉱山抗廃水及び処理の将来予測に関する研究	鉱山の抗廃水の将来的な水質の変動予測等から、将来的に必要となる経費負担を明らかにし、水処理のあり方を検討し、持続的な抗廃水処理について提案する。	H29～31年度
7	リサイクルチーム	事前	廃棄物、土壌の溶出試験における試験精度に関する研究	廃棄物及び土壌の溶出条件を検討し、望ましい試験操作条件を提案し、分析機関の精度確保を目指す。	H29～31年度
8	リサイクルチーム	事前	廃棄物再生材料の環境安全性に関する迅速試験方法の開発	廃棄物再生材料の蛍光X線分析を利用した選別技術を開発するとともに、蛍光X線分析を用いた溶出試験方法を開発し、迅速で簡易な試験方法を確立する。	H29～31年度
9	化学衛生室	最終	迅速化を目的とした既試験法改良の検討	PCB分析で精製操作に絶縁油専用PCB前処理装置を用いること、また動物用医薬品分析で4種の試験法をより少ない試験法に集約することで、行政検査におけるより迅速な結果判明や検査時間の短縮に繋げる。	H28年度
10	水環境対策チーム	最終	リモートセンシングを利用した湖沼観測システムの開発	面的な湖沼観測方法として、UAV（無人航空機）による広域的な湖沼観測システムを開発し、藻場調査、アオコ・赤潮調査、水生植物の植生分布調査等に活用する。	H26～27年度

平成28年度鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価対象課題

11	水環境対策チーム	最終	湖山池の環境変化に伴う生物多様性・生態系評価及び自然再生方法の検討	<p>(1) 平成24年3月に水門開放し汽水湖化した湖山池は、水質や生態系に大きな変化が生じていることから、この変化の過程にある生物多様性や生態系の変遷過程を捉え、今後の湖山池の望ましい姿を目指した施策に繋げる。</p> <p>(2) かつて生息していた淡水動植物（水生植物、カライガイ）の保全に向けた自然再生方法を提案する。</p>	H24～27年度
12	大気・地球環境室	最終	越境大気汚染（光化学オキシダント）の植物への影響に関する基礎的調査研究	<p>光化学オキシダント（Ox）が植物に及ぼす影響を把握することで、Ox濃度が上昇した場合の影響を予測し、被害防止のための基礎データとするため、次の研究を行う。</p> <p>(1) フィールド調査により可視被害の有無を把握する。</p> <p>(2) オープントップチャンバーによりOx暴露による植物への影響を調査する。</p> <p>(3) 被害植物の遺伝子発現試験を行う。</p>	H25～27年度
13	大気・地球環境室	最終	鳥取県内におけるPM2.5の実態把握に関する調査研究	<p>PM2.5高濃度時における発生防止対策や健康リスク低減のため、次の研究を行う。</p> <p>(1) 成分分析により発生源及びその寄与割合を把握し、発生防止対策の立案、実施に繋げる。</p> <p>(2) PM2.5高濃度時の大陸からの越境大気汚染の影響や県内発生源からの影響を把握する。</p>	H26～27年度
14	リサイクルチーム	最終	ブラウン管ファンネルガラスのリサイクル技術実証化研究事業	<p>鉛を高濃度に含有する廃ブラウン管ファンネルガラスのリサイクル技術を確立するために、H25年度に設置した実証施設を用いて、鉛の揮発分離技術の実証試験を行う。</p> <p>(1) 分離技術の実証と課題の抽出</p> <p>(2) 回収鉛、再生ガラス材の品質評価とリサイクル手法の確立</p> <p>(3) 経済性評価による事業実施の可能性や課題の整理・検討</p>	H25～27年度